

日立マクセル株式会社御中

page 1/2

時価総額2,000億円になる前提は5年後で売上高1,746億円、営業利益152億円

貴社を投下資本、超過利潤価値、成長価値などに分解するEVA法によって分析した。業績や将来見通しなどをベースに試算した結果、株主価値は2,000億円と推計することが可能である。5年程度で売上高が1,746億円、営業利益が152億円となる前提である。この試算によれば、株主価値と時価総額のギャップは671億円（時価総額の50%）。次頁の「③成長価値」で示したシナリオが株価に織り込まれればアップサイドが期待可能。

①株主投下資本 961億円

- 直前四半期末の全投下資本は1,091.7億円、全投下資本/今期売上高の比は④78.0%と推計。有利子負債等を差し引いた株主投下資本は961.1億円と推計。[株主投下資本 = 株主資本から非事業資産を除く]

②超過利潤価値 72億円

- 今期の税引後営業利益（NOPAT）は約55.3億円、NOPATマージン（NOPAT÷売上高）は⑥4.0%と推計。⑥÷④で算出される投下資本利益率（ROIC）は5.1%となる。
- 全投下資本に対して投資家が要求する最低限のリターン、加重平均資本コスト（WACC）について、JPRは株価リターン等をベースに4.8%と推計。ROIC-WACC = ROICスプレッドは0.3%となる。
- これをベースに今期の超過利潤（EVA）を推計すると3.4億円と推計される。今期のEVAの永久価値（超過利潤価値）はEVA÷WACCで計算され、72億円と推計される。

③成長価値 755億円

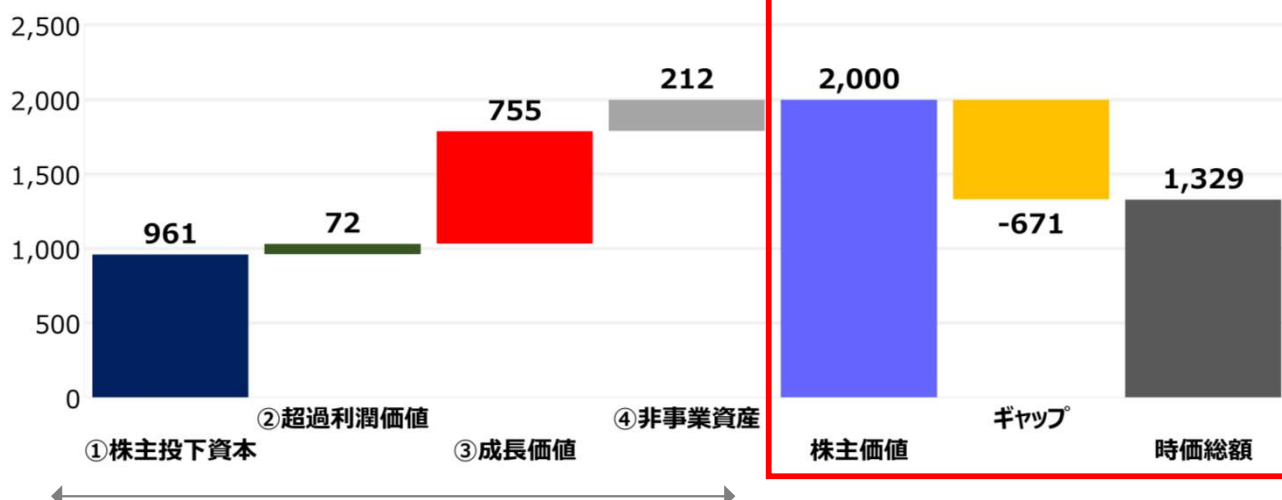
- 5年後の売上高が1,746億円、営業利益が152億円となる前提で、成長価値は755億円と推計。

④非事業資産 212億円

- 月商1.5か月を超えた現預金など、事業に投下した資本以外の資産は212億円と推計。

株主価値構造とバリュージェットアップの有無

[単位：億円]



計算過程は次ページ以降参照

[日経ValueSearch等を利用して作成、2017年09月05日時点]

EVA®は米国スターンズチュワート社の登録商標

Copyright © J-Phoenix Research Inc. All rights reserved.

EVA®は米国スターンズチュワート社の登録商標。本資料には予想・見通し・目標・計画等の将来に関する事項が含まれております。これは当社が本資料作成時点において入手した情報に基づき、当該時点における予測等を基礎として作成されております。これらの事項には一定の前提・仮定を採用しており、一定の前提的予想を含むものも含まれております。また、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確である事が判明し、あるいは将来においてこれらの予想は実現しない事があります。その為、本資料に掲載されている予想・見通し・目標・計画等の将来に関する事項について、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新もしておりません。同時にその内容の正確性、完全性、公平性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。問い合わせ先：http://j-phoenix.com/contact.html

